

12月の 園便り



26年 新潟青陵幼稚園 加藤 由美子

さんぽようびはとつぜんやってくる おひさまとおじいちゃんのきげんのいいひ
さんぽようびは あるく あるく どこへいくのかきまっていない
ただ どこまでも あるく あるく それがさんぽようび・・・

絵本「さんぽようび」のなかの言葉です。

おじいちゃんと男の子がお散歩をするお話ですが、どこへ行くのか決まっていな散歩
なのです。何に出会えるか、どんな人との出会いがあるか、楽しみがあります。

子どもが小さい頃、よくこんなふうに散歩したことを思い出します。

行先はきめないで、今日はこっちの方へ行ってみようかと、ぶらぶら歩き始めます。

子どもの目は、こまかな宝物を見つけることに長けていて、「みて、不思議な緑の石！」

(ごみ焼却場でできた石みたい)「お花見つけた！」(雑草の花)「見て、宝物」(お茶碗
のかげら)とつぎつぎに、心惹かれる物を見つけてはポケットに入れていきます。

子どものポケットはすぐにパンパンになってきますが、それでも、ポケットに隙間を作
って押し込んでいて、大切な宝物の一つとして逃したくないかのような姿でした。

よそのお宅の洗濯物が干してあると、「あ、このくつした、ちさいね、これはこどもの
くつした…これはおおきいからおとうさんだね」と知らないご家族に思いを馳せながら

歩いていきます。子どものペースに合わせて歩いて、子どもの目線でものを見てみると、

世界はずいぶん広くて、すこし先が、とても遠く感じるようです、子どもにとって、こ
の世界は初めて出会う魅力的なものがいっぱいあるようです、散歩は、なかなか前には

進まないけれど、子どもはいろんなものと出会って、ものと会話をして、ものを知っ
ていくのですね。自分で身の回りのものと出会っていきます。

子どもたちが、ものと出会い ものと会話が出来るような機会を作ってあげられるよう
に、園庭や散歩道を自然のまま残しておいてあげたいですね。

子どもと散歩をしている時は、大人にとっては、待っていることの方が多くて、ちょっ
と物足りない思いもするのですが、子どもが見ている世界を一緒に見つめてみようとする

ことは、子どもが感じていることが伝わってきて、心と心がつながり合うような気が
します。お母さんやお父さん、ご家族の方々が、同じものを見つめてくださるというこ

とは、子どもは自分が認められたように感じます。子どもにとってはとても嬉しいこと
ですね。「僕がいいと思ったことをお母さんもいいと思って見てくれる・・・僕が選ん
だものはいいんだ」と思えて、自分に自信を持つことができますね。

12月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	月	○	2:00		
2	火	○	2:00		
3	水	○	2:00		
4	木	○	2:00		
5	金	○	2:00		
6	土	×	11:30	自由登園日	
7	日	/	/		
8	月	○	2:00		
9	火	○	2:00		
10	水	×	11:30	誕生会です、12月生まれさんの保護者の方と一緒に祝いましょう	
11	木	○	2:00		
12	金	○	2:00		
13	土	/	/	第2土曜日	
14	日	/	/		
15	月	○	2:00		
16	火	○	2:00		
17	水	○	2:00	青陵高校生が職場体験に来ます。	
18	木	○	2:00		
19	金	○	2:00		
20	土	×		アドヴェントの庭を行います。詳細は各クラスのお便りをご覧ください	
21	日	/	/		
22	月	×	11:30	第2学期終業式	
23	火	/	/	天皇誕生日	
24	水	/	/	星の子は行います。	
25	木	/	/	星の子は行います。	
26	金	/	/	星の子は行います。	
27	土	/	/	第4土曜日	
28	日	/	/		
29	月	/	/	冬季休業	
30	火	/	/		
31	水	/	/		